

広報うつくし

特集

牛久市の子育て支援

企画 戦略的広報特定プロジェクト

発行日 平成25年3月1日

実効性重視の子育て支援

市民・行政・専門家の連携で日本一を目指す

充実する児童クラブ

教委指導課との連携が生きる

核家族化と働くお母さん方の増加で、今や子育て支援体制の充実がまちづくりの最重要課題の一つ。牛久市は「妊娠から始まる切れ目のない子育て支援」を目標に、幼稚園、保育園、児童クラブ、要保護児童対策、各種個別支援サービスなどの充実を注いでいます。児童クラブは教育委員会が管轄。いじめ・虐待対策では行政・専門家・市民の連携を徹底。各種支援サービスではボランティアの動きも活発。子育て日本一を目指して実効性の高い展開に知恵を絞っています。

低コスト（といっても1億円以上かかっています）で待機児童を出さず、運営も非常にうまくいっているのが牛久市の児童クラブです。小学校全8校に設置されており、神谷小学校

区では学校のほかにさくら台児童クラブがあります。平成24年度は、全小学生4429人のうち763人が利用しています。これを見守る指導員は全部で96人。このうち常に

69人が現場に出られるようローテーションを組んでおり、1人の指導員が11人の子どもの面倒を見る体制になっています。

一頭地を抜くサービス内容

午後7時まで、6年生までOK

牛久市の児童クラブはよその自治体に比べると、サービス内容が非常に充実しています。

牛久市は6年生まで預かっていますが、国の基準は概ね10歳まで。多くの自治体が3年生までしか預かりません。

利用資格も、多くの自治体は保護者が週3、4日以上就労していることを条件にしていますが、牛久市では週2日以上就労していれば利用できます。

預かる時間も「延長」を利用すれば午後7時まで。

児童クラブを利用できるのは、保護者または同居の親族が働いているなど昼間家庭に保護者が不在となる子ども。牛久市では6年生まで預かっています。現在4年生以上の子どもも約150人利用しています。牛久市の児童クラブは小学校の空き教室を利用してありますが、中身は「家庭」だという設定になっています。子どもたちは「たいたいま」と言って帰り、指導員は「お帰りなさい」と言って迎えます。

児童クラブに来て、子どもたちがまずやることは宿題。これは指導するわけではなく、宿題の時間を30分から1時間きちんと設けているということ。保護者の中には児童クラブが塾的な役割を果たしてくれることを望んでいる人もいますが、そこまではやっていません。その後遊び、おやつを食べてまた遊び、午後6時までに保護者が迎えに来て帰ります。こういった日常生活のほかに、ときどきイベントがあります。夏祭りや工作など、各クラブが、みんなで一緒に楽しい時間を過ごす工夫をしています。

児童クラブに来て、子どもたちがまずやることは宿題。これは指導するわけではなく、宿題の時間を30分から1時間きちんと設けているということ。保護者の中には児童クラブが塾的な役割を果たしてくれることを望んでいる人もいますが、そこまではやっていません。

児童クラブでは1年生から6年生まで一緒に生活します。これは年齢の違う子ども同士が接し方を身につけるのに役立つというわけです。高学年の子どもの面倒をみる光景も見られます。

することが多く、教育委員会が管轄する場合でも生涯学習課が担当するケースがほとんどです。

しかし牛久市の児童クラブは教育委員会指導課と連携しており（利用窓口は児童クラブ課）、各小学校の校長が施設長になっています。この全国的にも珍しい体制が、牛久市の児童クラブ充実の非常に大きな力になっています。

学校教育を統括する教育委員会が担当することで、児童クラブの指導員と学校の先生とのコミュニケーションや研修が非常にうまくいき、それが児童クラブ運営の随所に生きているのです。



牛久第二小学校児童クラブの子どもたち

大きな強み、学校の協力

指導員の研修もきめ細かく

指導員は毎月1回、施設長の校長先生と話し合いの場を持っており、そこで子ども同士のもめ事や子どもとの接し方、指導員が抱えている悩みなどについて話し合ったり相談したりしています。校長先生が担任の先生に「つなぎ、指導員が先生に1対1で相談することもあります。逆に指導員から先生に情報を提供することもあります。児童クラブは遊びが中心なので、子どもが学校では見せない面を見せることもありです。そういう情報は、生徒一人一人に学びを保障することを目指している牛久市の先生にとっては、非常に貴重なものです。牛久市の小学校では放課後子ども教室でゲストを呼び、演奏会、ダンス、外遊び、工作などを月2校、小学校

持ち回りのような形で行っています。これは児童クラブ課企画の行事ですが、児童クラブの全児童と希望する一般の児童も多数参加します。このようなイベントをやるために体育館などの施設を借りたいといったとき、直ぐに話が通じるといったことも、校長が施設長であればこそそのメリットです。指導員の研修はきめ細かく行われています。県や市が企画する研修会のほか教育委員会指導課の先生が子どもへの接し方について指導し、元小学校の校長先生だった2人のアドバイザーが各児童クラブを巡回し、指導員の指導を行っています。2人のアドバイザーは児童クラブが子どもたちを楽しませる企画を行う際にも、いろいろな角度からアドバイスをしています。

いじめ・虐待に幾重もの体制

実務者の顔が見える連携

事態のエスカレートを防ぐ

いじめ、虐待、障がい、その他親や子どもに何らかの支援が必要な児童についての相談で、牛久市児童福祉課が昨年度新規に把握した問題は56件ありました。その中身は、親が病気や障がいなどで子育てが困難なケースが20件、子どもが障がい等を抱えているケースが16件、親が子育てに不安を訴えるケースが9件、親などが子どもを虐待するケースが6件、非行が4件

も、深刻な事態にまでエスカレートするのを防ぐ、非常に大きな力になっていきます。要保護児童・要支援児童をケアする牛久市の体制は、複数のシステムが重層的に機能しています。そのうち、要保護・要支援児童の問題全般をカバーしているのが牛久市要保護児童対策地域協議会です。

牛久市要保護児童対策地域協議会は、児童福祉・保健医療・教育・警察・司法

関係の代表者会議（16人）と実務者会議（55人）で構成されています。実務者会議は児童相談所の児童福祉司、市の児童福祉課責任者、家庭相談員、精神保健担当保健師、保育園・幼稚園の園長や主任保育士、教育委員会の指導主事、小中学校の教頭や生徒指導主事、子ども発達支援センターの指導員、特別支援学校の生徒指導主事、地域の主任児童委員、保健所や保健センターの母子保健担当保健師、警察署の少年事件捜査担当、人権擁護委員などがメンバーになっており、児童福祉課の家庭児童相談室が調整役を務めています。

を生きて役に立つものにしていきます。要保護児童問題で一番重要なのは、問題の存在をなるべく早く察知し、事態が深刻化しないよう早期に適切な支援を行うことです。問題の存在は（1）本人（親）が保健センターや家庭児童相談室、病院などに相談に来て分かるケース（2）小中学校、幼稚園、保育園、児童クラブなどで把握されるケース（3）児童福祉課

や保健センター、社協などが、様々な子育てサービスを通じて親子に接する過程で分かるケースのほか（4）最近では市民からの泣き声通報などで分かるケースも増えているそうです。核家族化が進化する中、子育てを1人で頑張りすぎないよう、周囲で温かく見守っていける体制を築いていこうというのが、子育てに対する牛久市の基本的な考え方です。

授業にどのように参加していたか、一人一人の生徒について具体的な名前を挙げて、先生方が観察したことを話し合います。このために先生方は、生徒一人一人が今どんな悩みを抱えているかといったことまで情報を共有できることが多く、それが生徒を巡る様々な問題の早期把握にもつながっています。いじめや虐待の問題を察知した場合、牛久市の小中学校では、担任の先生だけでなく必ず教頭や生徒指導主事など複数の先生で組織として対応することにしており、それも問題を適切に処理し、小さな芽の段階で摘むことに貢献しています。

個別支援会議は随時開催

問題のいち早い察知に全力

この中で特に重要な役割を果たしているのは、実務者会議のうちの年3回開かれる実務者代表会議と問題ごとに随時開かれる個別支援会議です。

もらうかは、家庭児童相談室で割り振るケースが多くなります。1つの機関で目一杯支援したが、もうちょっと良い支援が出来るのでは……という場合、他の機関の実務者に個別支援チームに入ってもらうこともよくあります。

児童福祉課は必要に応じて頻繁に教育委員会や保健センターなどの担当者と相談しますが、互いの物理的な距離が近く、市長が「縦割り厳禁」の号令をかけていることもあって、チーム内外の横の連絡が非常にいいことが、牛久市要保護児童対策地域協議会の機能



小坂団地新春区民の集い。西アフリカの太鼓に合わせて踊る子どもたちの輪の中に奥野小学校と牛久第二中学校の校長先生の姿（中央後方の背広の二人）がありました。先生方こういう姿勢は、きっと、いじめや問題行動の防止に役立っているに違いありません。

表会議はその報告をもとに、どの機関がどの問題を扱うか役割分担を決めたり、具体的なケースへの対応の仕方をいろいろな角度からチェックしたりします。しかし年3回の会議では機動性を欠くので、一つ一つの具体的なケースを、実務者のうちの誰に担当して

児童福祉課は必要に応じて頻繁に教育委員会や保健センターなどの担当者と相談しますが、互いの物理的な距離が近く、市長が「縦割り厳禁」の号令をかけていることもあって、チーム内外の横の連絡が非常にいいことが、牛久市要保護児童対策地域協議会の機能



牛久市の先生方の研修会では、生徒一人一人について知る努力が非常に大きな部分を占めています。

学校は複数の先生で対応

幼稚園・保育園には専門家が巡回

いじめの防止と早期把握

の研修を行っています。

では、牛久市の教育の仕方そのものが非常に大きく役立っています。牛久市は全小中学校で、学び合いを通じて生徒一人一人に学びを保障することを目指しており、先生方は毎月そのための研修を行っています。その研修とは、1人の先生の授業を学年の先生方全員で参観し、放課後、その授業について先生方全員で話し合います。その際話題にするのは、授業の進め方だけでなく、生徒がその

幼稚園、保育園については、牛久市は障害児教育の研究者、臨床発達心理士、保育カウンセラー、障害児療育センター指導員、保健師や教育委員会、児童福祉課、社会福祉課、保健所などの専門家で構成された幼児教育サポートチームを持っています。メンバーは2人1組で牛久市の公立・私立全ての幼稚園・保育園を年に5回、ほぼ毎週定期的に巡回して保育士や保護者の相談に乗っています。これも虐待や障害児養育、子育て不安などの問題に適切かつ機動的に対処する上で非常に役立っています。こういうサポートチームを持っている自治体は全国的に見ても稀で、専門家の間では高く評価されています。

来年度も増える保育園の定員

待機児童解消あと一息

ひたち野地区子ども人口急増

過疎化や少子化でどこまもなく人口減、特に子ども人口が減っている中で、牛久市は茨城県で15歳未満の子どもの一番増えているまちです。特にひたち野うしく地区では増え方が予想以上に速く、平成22年開校のひたち野うしく小学校では、早くも校舎の増築が行われています。

この3月末には老朽化している中央保育園が閉園し、奥野小学校の空き教室に奥野さくらふれあい保育園が開園します。また4月1日にはひたち野うしく地区に牛久みらい保育園が開園します。これで牛久市の保育園定員は現在より100人以上増え1600人を超えます。これにより待機児童は、完全には解消しないまでも大幅に減る見込みです。

牛久市では、小学校の空き教室を利用して保育園を開設するケースは、向台小学校にある牛久ふれあい保育園に続き2園目となります。このような立地は、園児たちが学校の雰囲気になれるのにとっても役立つといえます。牛久ふれあい保育園の3歳以上の園児は、向台小学校と同じ給食を食べています。奥野さくらふれあい保育園も同じように小学校給食を提供する予定です。



平成24年に新設された「ひたち野うしく保育園つくしんぼ」

その子どもたちを受け入れるために、牛久市ではこの5年間に新たに5つの保育園が開園し、定員も約2

社協も保育園を運営

教委主導で幼保小緊密に連携

保育園を社会福祉協議会が運営するようになったことも牛久市の大きな特徴です。牛久ふれあい保育園に続いて奥野さくらふれあい保育園の運営も牛久市社協が担当します。牛久ふれあい保育園では、これまでの社協と地域のつながりを生かして、保育園に通っていない地域の親子に保育園を開放する事業や相談事業に



光が差し込むすすく広場の室内には、子どもたちの大好きな遊び道具が充実しています。

未就学児の子育て広場として、上柏田3丁目にある「すすく広場」と総合福祉センターにある「のびのび広場」が好評です。利用登録者は現在、すすく広場が1307人、のびのび広場が739人。11人の子育てアドバイザーが交代で運営しています。

すすく広場は昨年、市が空き民家を買収して近くの商工会ビルから移転して来ました。元民家なので一つの部屋は商工会ビルの時に比べると狭いですが、柏田第2街区公園に隣接しており、部屋を出ると直ぐ公園で、室内遊びと外遊びを自由にすることもあって、利用者がどんどん増えています。

のびのび広場は一つの広い部屋を使っており、少しぐらいいなら走り回ることもできるので、大きい子ども



公園と隣接して人気のすすく広場

利用広がる子育て広場

児童クラブ利用基準緩和の動きも

はこちらの方が良いようにです。すすく広場、のびのび広場とも利用者は牛久中から集まっており、両方を利用している親子もかなりいます。

子育て広場はこの2つのほかに、ひたち野うしく駅前のリフレビルで週1回開催されます。

子育て広場は、主に母親や祖父母が子どもや孫を連れてきて遊ばせる場所なので、母親にとっても友達を作ったり、情報交換をしたりする場所になっていきます。弁当持参で利用する親子もたくさんいます。

子どもの遊び場についてはお母さん方から「親が働いているいないに関係なく、子どもが自由に遊べる、小さな体育館機能を持った児童館が欲しい」という要望が出されています。この点について市は、現在の児

もが集団生活をやっていけるように指導するという点では、牛久の幼稚園は重要な役割を果たしています。

特に牛久の幼稚園と保育園は公立も私立も、教育委員会の主導で小学校との連携を緊密にとっているの

で、幼児期から情緒面の安定を図り、人と関わる力を育て、小学校にスムーズに上がっていくうえで、非常に大きな成果を上げています。

地域交流センターをどのようなものにするのか。これには市民レベルでの議論が必要で、その議論の場としては、市が行政区の役員を対象に始めた小学校区ごとの政策懇談会や、今年中に全小学校区での設立が予定されている地区社協などが考えられています。

また、中長期的な方向性として、小学校区ごらいう単位で大人も子どもも利用できる地域交流センターのようなものをつくり、そこに児童館的な機能も持たせるといった考え方も浮上しています。

活発な子育てボランティアの動き

個別サービスも充実

引っ張りだこの「ブアミサポ」

子育て支援では、部署ごとの個別サービスも大きな役割を果たしています。出産予定日が決まり市の健康管理課に妊娠届出書が提出すると、母子健康手帳と妊婦一般健康診査受診表が交付されます。第1子妊娠の中期には、お父さんも一緒に入浴のさせ方などを実習する妊婦・夫にんぶつぷ）教室も開かれます。



神谷小さくら台児童クラブの子どもたち

ながいる家庭に対しては、3・4カ月児健診の案内と乳児一般健康診査受診表が送付され、保健師や助産師が各家庭を訪問して育児の相談に乗りまします。保健センターでは毎月、日を決めて離乳食の相談や子育て相談に応じています。

ポトセンターです。これは、例えば保護者が仕事や病気などで保育園や児童クラブに子どもを迎えにいけないとき、代わりに迎えに行ったり、保育を行ったりするサービスで、現在利用会員が610世帯、協会員が173名います。社会福祉協議会の担当者が利用会員と協会員

の仲立ちをしています。協会員には30分300円の活動費が支払われますが、有償とはいえ住民相互のボランティア精神で維持されているシステムです。就学前の子どもの一時預かりは保育園と子育て広場でも行っています。また、家族の病気や育児疲れで子どもの養育が一時的に出来なくなったりといった場合に、7日以内の範囲で泊まりで児童養護施設や乳児院に預かってもらえるショートステイサービスの利用も最近増えています。

「こどもも生きる市民の力」

子育てサロンや読み聞かせ

いろいろな個別サービスで大勢の市民ボランティアが、それぞれに役割を果たしてくれていることも、牛久市の子育て支援を有効性の高いものにする上で、非常に大きな力になっています。中央図書館では、読み聞かせボランティアの協力を得て、様々な「おはなし会」を開いています。毎週水曜日に未就学児対象に絵本の読み聞かせや紹介を行う「お

れる「おもちゃ病院」も開かれます。これらはすべて別々のボランティア団体が支えてくれています。牛久自然観察の森では子供昆虫教室や朝・夜昆虫観察会、森でランチ（幼児とお母さんのための絵本読み聞かせ会）、夏休み森の学校、森のママニターサロン（妊婦が新緑や紅葉の中を助産師と一緒に散策やクラフトづくり、子ども星見隊など、数多くの子育て支援イベントを行っています。そのほとんどがボランティアによって支えられています。



中央図書館での読み聞かせ

強力な子育てネットワーク

自主活動の傍ら行政の補充も

サロンの枠を越える子育て支援活動も活発です。おやこ劇場は全国組織で、牛久おやこ劇場は26年前から活動しています。0〜3歳の未就園児の親子を対象に、お芝居やコンサート鑑賞会、カフェなどを開いています。トーンチャイム（アルミ合金のパイプを叩いて共鳴させ、ハンドベルのように演奏する楽器）を鳴らして楽しんだり、竹楽器づくり、サツマイモ栽培、焼き芋、味噌づくり、だんごづくり。キャンプやコミュニケーションの勉強会もやっています。

牛久冒険遊び場をつくる

会「やんちゃ会」は、子どもに外で自由に遊ぶことの楽しさを体験させるとともに、子どもや親、地域にとつてそういう場が必要であることを伝える活動を行っています。毎月第三土曜日の午後、みどり野第1街区公園で「やんちゃ天国」を開催。樹木にロープやシートを張ってブランコや綱渡り、ハンモック、秘密基地づくり、木工、砂場で穴掘り、段ボール遊び、花火大会、焼き芋づくり、パン食い競争、餅つき大会、星空の映画会、やんちゃ運動会等々。遊びのメニューは極めて多

彩かつ野趣に富んでいます。子どもたちは異年齢で群れて遊ぶことで、人との関わり方を学んでいるのです。母親クラブ「かんがるう」は、牛久にも児童館が欲しいと考えたお母さん方が、子育てと一緒に楽しもうという事で平成10年に立ち上げた会。月に数回、神谷小さくら台児童クラブの建物借りて、リトミックや親子体操、工作など、主に未就学児親子で楽しむほか、子育てに余裕の出来た先輩お母さんが、いろいろな企画を考え活動しています。



毎月第3土曜日の午後、みどり野第1街区公園で開かれる「やんちゃ天国」